

角田隆講義録『病理総論』(8)

八木聖弥

京都府立医科大学医学部医学科人文・社会科学教室

(前号からのつづき)

類器官腫瘍又は上皮性の腫瘍

之れは主成分の基原が内胚板又は外胚板より生ず。同時に間質を結締組織が形る。

Fibroepitheliare G. 繊維上皮性の腫瘍

此中には種々あり。即ち被蓋上皮よりなるもの、腺細胞よりなるものとなり。

甲は皮膚又は扁平上皮細胞を以て被はる粘膜よりなる繊維性上皮性腫瘍なり。此腫瘍にして結締組織と上皮細胞よりなる腫瘍は、種々の名称を有す。然れども外観は皆類す。多少は形の差異より文字の上に多少差ある如く見ゆる。

Warze 症と名くる腫瘍あり。之れは皮膚の表面に自ら結節状の小腫瘍を生じ、其表面は滑沢にして或は毛髪を生らるあり。色素の附着するあり。之れは軟なるを以て一名 **Verrucae Mallae** と名く。之を鏡下に見るときは、一本の皮膚の乳嘴体が表面に自ら延び、且つ太くなる。之れを **Normale Pipillen** と名く。乳嘴体の表面を被ふに上皮細胞の厚層を有す。健康なる皮膚にても重層の厚き扁平上皮より被ふる病的のときは、尚厚く乳嘴体を被ふ。其他 **Papillom** と名くるあり。之れは臨床上の名にして、病理学上より云ふときは **Fibroepitheliom** 繊維上皮腫瘍と名くるが可なり。即ち女子乳房の乳嘴に例ふ。之れは増大せる乳嘴体にして、之れは単一ならずして多数に別る。即ち一つの基礎 **grandstock** ありて、それより分枝す。恰も手掌に指の生ずる如し。即ち小乳嘴が生ずるなり。此上に著名に發育したる上皮細胞の膚が被ふ。此小乳嘴は幾何にあるかは大によりて数異なる。時として小乳嘴より更に小乳嘴が發育する事あり。尚稀に其上に小乳嘴の重なる如き事あり。

其他乳嘴性上皮腫瘍中、乳嘴が長く發育して分枝するもの、恰も樹枝に想像し得る分

枝を表はす事あり。乳嘴体を被ふる厚き上皮細胞の層を以てするあり。之れは皮膚、殊に空洞になる器官の中に生ず。例へば膀胱・腸管・喉頭の肉腫等なり。斯かる形を有する乳嘴が最も多く、一つの基礎根より発生する場合は、恰も毛の生じたる腫瘍の如く見ゆ。此ときは乳嘴性なる名は適せずして、即ち **Zottengeschwulst** 絨毛腫と名く。殊に適する名は **Zottenge Fibroepitheliom** 絨毛様繊維上皮腫と名く。其他尚 **Spitze Condylom** 尖鋭胼胝腫と名くるあり。之れは皮膚と粘膜との移行部に生じ、乳嘴状の繊維上皮腫に類す。恰も皮膚の乳嘴の如く多生す。

乙、腺細胞より生ずる繊維性上皮腫。斯かるものを総称して腺腫 **Adenom (Drüsen G.)** と名く。小腺組織又は器官組織にても腺の細胞増加し腺組織増大す。同時に腺の間質が腫瘍の形成に預る。此ときに名くるなり。其際腫瘍を作る上皮細胞は健康と異なる作用か、又は生理的の作用を営む。健康と異なるは管状腺或は葡萄状腺等の区別なり。両方混合す。例へ腫瘍の生じたる組織は葡萄状腺なるも、葡萄状腺の形を有する所と管状腺の形を有する所とあり。之れと同じく管状腺より始め生ずるも同じ。又腫瘍を作る腺組織は、腺腫が排泄管を有せざる事あり。然るときは分泌物が貯留して、大なる腺腔を形する事あり。之れは囊状を呈す。小腺中にては汗腺・皮膚腺等より、腺細胞増加するときは皮膚に小なる結節状の腫瘍を形り、元より真皮又は皮下組織中になりて上皮を以て被はる。之れを汗腺腫又は皮脂腺腫と名く。各汗腺腫なれば汗腺に特異なる所あり。皮脂腺は又それに相当せる構造を有す。又葡萄状粘液腺又は管状粘液腺よりも生ずる事あり。此ときには粘膜の固有の層中に生ずるか、又は粘膜の表面に向て隆起する結節状の腫瘍を生ず。大なる器官の腺腫は種々あり。即ち脾・膵・乳腺・辜丸・卵巢等の如きものなり。此ときは結節状腫大 **Knotige Tumor** と名く。此ときは健組織と明なる界なく、一局所其組織中に又は表面に向て結節状に器官が膨隆す。之れを検するときは、健康なるものと腫大なるものと多少差異あり。即ち腺組織の構造或は排列が変化す。若し元発するものが管状腺の定形を有するときは、病的にも管状腺の定形を有する外、葡萄状腺の定形を有するものもあり。又腺細胞自己の関係よりも多少差異あり。即ち健康なるときは骰子形、腫瘍のときは円柱形となる束に多角形となる。尚健康のものより大なり。即ち原形質が増す。又機能異なるを以て原形質の成分も多少異なる。腫瘍の細胞は色素に対して可染質に富む。殊に核に存す。故に核が健康のものより大きく原形質の染色力も病的に於て異なる。其腺細胞の異にても病的なるを知る。尚腺組織と間質との排列が不規則となる。健康なるものに於て

は腺組織間にある結締組織は少きも、腫瘍のときは増加す。若し前述の症状を見ずして、結節状に組織が膨大するのみにては腺腫と名くるを得ず。尚腺腫中、囊状腺腫 Cystadenom (Kystoadanom) と名くるものあり。之れは始めは単純の腺腫と同様にして、葡萄状腺又は管状腺の定形を有するあり。而して結節状の腫瘍となりて存す。然れども其腺の組織は少しも排泄管なくして閉鎖す。故に分泌物の出ずる所なきを以て其一々の腺組織が次第に広く、遂に大なる囊となる。其囊の数は腺の数丈け生ず。従て全体の腫瘍が非常に大となる。即ち分泌物留まるを以てなり。其空洞中には粘液様の物質又は粘液を含む。此の粘液は腺細胞の病的の産生物なり。決して此腫瘍の基礎の腺細胞の機能とは一対せず。此囊は壁の滑沢なるものを Cystadenom Simplex 単純の囊状腺腫或は滑沢性の腺腫 Glattwandige Cy. と名く。時として囊腫の内面より更に第二の組織を生ずる事あり。即ち乳嘴状の結締組織及其れを被ふ上皮細胞を生ず。之にて腫瘍内の乳嘴状増殖物と名く。結締組織は壁の結締組織の延長したるものなり。故に壁の細胞と通有性なり。即ち皮膚のものと同じ。増殖物は一つの囊腫の中に僅に発育するときと多く発育するときとあり。多きときは増殖物によりて充す。之れに反して粘液は少くなる。時に全く消失す。而して固形物にあらざるかの疑あり。壁より多くの新生物を生ずる囊腫を Papillaere Kystom (od. Cystadenom) 乳嘴性の囊腫と名く。之れが生ずるは殊に卵巣に多く生ず。卵巣より生ずるは多くは胎生的の異物より生ずるが多し。其異物とは卵巣を作る基礎の細胞、即ち Wulfsche Körper ウルフ氏小体が尋常に発育するときは卵巣濾胞を生じ、自己は消失するものなるも能く小体を貯留す。ウルフ氏小体は一つの腺組織と想像し得。即ち腺細胞よりなる。元は腺細胞の索状物なり。之れが溢れて別れて濾胞となる。其濾胞にならざるものは残りて増加し、皮膜の結締組織中に広りて其中より粘液質が分泌され、それが増加して囊腫を作る。然れども卵巣のみならず、其他肝・睾丸・乳腺・腎臓等より又能く生ずるを得。此ときに胎生的の基原の細胞が増加して囊腫を作るか、或は肝細胞となりてより其れが増加して囊腫を生ずるかは不明なり。従て他の器官に於ても同様に何れより生ずるかは不明なり。

以上の腺腫及囊腫は良性なり。只、腺腫なれば余り大なるものあらず。然れども囊腫に於ては其大非常に大なるものあり。殆ど腸腔内の全部を充たす程のものは卵巣より生ず。故に婦人科学上必要なり。発育は緩慢にして、之れを除去するときは再発する事なく、又転位する事なし。只、此腫瘍より癌腫が発生する事あり。此ときは悪性と

なる。之れが多く生ずるは中年、稀に先天性に生ずる事あり。

Carcinome 癌腫 od. Krebse (Cancer)

之れは被蓋上皮細胞又は腺細胞が制限なく増殖して、或る健組織又器官を破潰するものなり。而して遂に其人を死に至らしむる病なり。此上皮細胞は其發育急激にして、主に自分の生理的の範囲を越へて組織の内部に入るものなり。即ち其深部の組織内にある淋巴管隙（組織間隙）中に増成せる上皮細胞が入る。即ち悪性の腫瘍なり。癌腫には上皮細胞成分と間質との二つが主成分なり。然れども主なる働きを表はす成分は上皮細胞にして、結締織は他動的の關係を有する状態にあり。其制限なく増加する上皮細胞は、已に病的なる上皮細胞より生ずる事あり。又予め健康なる上皮細胞よりも發生す。即ち始めに或る炎症に罹る皮膚又は粘膜より生ず。然るに或る時は、健康なる粘膜又は皮膚より生ず。其他病性の上皮性の腫瘍より生ずる事あり。癌腫細胞が進入する已存の組織は、癌細胞の爲め圧迫されて消失す。故に今皮膚又は粘膜に癌腫が生ずるときは其等の構造消失し、腺より成るときも同様なり。其腺は外又は内胚板に属するものに限る。中胚板より生ずる事なし。

癌腫の外形

之れは悪性なるを以て外形浸潤性なり。常に腫瘍と健組織の境界常に不明なり。即ち腫瘍が浸潤性に成長するを以てなり。故に一定の形を有せず。皮膚又は粘膜なれば、腫瘍の部分が肥厚す。又他の大なる腺より生ずるときは、其腫瘍が尚小なるときは或る一部分の腺を占む。大となるときは全器官の全部に腫瘍の質が広がる。然れども健組織と異なるは色及硬度なり。其色の異なるは元より血管關係も存するが、実質の排列が異なる。尚癌組織は変性するを以てなり。殊に皮膚又は粘膜に生ずるものは変性して、表面破潰して潰瘍を生ず。其色通常白色なり。而して腦髓の自質を見る如し。稀に赤色又は灰白色を呈し、又緑色・黒色を呈する事あるは、其部に含まる血液の状態及腐敗 B. の發育によりて生ずる色素によりて異なる。黒色なる事は稀なり。之れは異物が附着する場合を除きては、癌細胞自己が其働きによりて黒色素を分泌す。之れを黒色癌と名く。硬度は柔軟なるものと堅きものとあり。一定せず。之れは結締組織の含有の多少によりてなり。即ち多きときは堅し。新なる切面は其間より液汁出で、

之れを圧するときには白色の液出が涌出又は流出す。其質は牛乳に能く似る。故に癌乳と名く。之れは漿液と癌細胞とよりなる。極めて稀に癌腫が始期に於て結節状の腫瘍を形り、皮膚又は粘膜の表面に隆起する事あり。而し之れは根部の所に見るときは、結節状を成せる部分より上皮細胞が連続して多少続いて入込む。

癌腫の鏡的の性状

鏡下に見るときは、癌細胞の集合するものと其間に存する結締織の間質 *Stroma* よりなる。其上皮細胞は常に多く排列して、索状 *Strähne* を呈す。或は *Zafen* 蕾を呈す。或は時として *Nester* 巢を形成す。之れは其形一定せず、不規則に癌細胞が集りて巢を成すを云ふ。之等を形る癌細胞は、癌腫を発生したる部位に關す。若し扁平細胞を有する部分、例へば皮膚又は粘膜より生ずるときは、扁平上皮の定形を有する癌腫を生ず。又円柱形を有する腺又粘膜の癌腫を發するときは、円柱上皮の定形を有す。又他の大なる腺体より生ずるは、其腺細胞が多角形なるときは、之れより生ずる癌腫の細胞又は多角形なり。従て癌腫細胞の種類によりて癌腫を區別するときは、扁平上皮癌・円柱状上皮癌・多角形性の細胞癌（又は腺癌と名く。又単一癌と名く）。

間質は有血管結締組織よりなる。其組織は癌腫の発生したる以前より存在せる結締組織なり。例へば癌腫が皮膚より生ずるときは、皮膚の下層より癌腫が索状又は蕾を成して真皮中に入る。即ち真皮の間隙中に入るを以て其真皮を形る。結締組織が間質を形る。此際真皮の結締組織は、癌腫が発生するときには伴ふて多少増加する事あり。此増加するは癌腫の発生すると同時に、癌細胞巢の間にある結締組織は肉芽状態を呈す。昔は癌組織の間質が肉芽状を呈するは重きを置けり。然れども今日の発生学上には重きを置かず。故に腺組織より癌腫が発生するも同じ。始めは健康なる腺胞を形り、腺細胞が増加して単層の腺のものが重層となる。腺の周囲の固有膜が破れて外方に向て腺細胞が増殖す。而して外方に増殖したるものは周囲の間隙中に入る。此入るには索状又は蕾となりて入る。而して其癌腫性になるには、一つの腺胞より癌腫が発生するにあらず。近くに存する多数の腺胞より癌腫細胞が増成するなり。即ち広き部分の結締組織の間隙が次第に癌細胞によりて充たざるを以て間隙が広くなり、同時に結締組織の方よりは癌細胞の中に入込む刺戟によりて結締組織が増加して肉芽状態を呈す。而して結締組織の間隙は、実体学上より云ふときは、淋巴間隙と名けて互に吻合す。其吻合のまゝ癌腫細胞が結締組織の間質中に入るを以て、索が更に吻合する如く見ゆ。

即ち淋巴間隙が吻合するを以てなり。時として癌腫が筋又は骨中に發育する事ありとすれば、其時にも筋及骨の質が癌腫の間質を作る事は屢々あり。即ち癌細胞の入込みし組織が皆間質となる。又骨中に入るときは骨が間質となる。故に上皮細胞が癌腫の主成分なるを知る。故に結締組織は必要ならず。癌腫の細胞が主成分なる事を知るには尚他の方法あり。即ち癌腫の細胞が一々離れて淋巴管又は血中に陥る事あり。然るときは身体外に運搬されて、其所に發育して元の如き癌腫を形る。

原因。他の腫瘍の如く不明なり。

遺伝説。癌腫は遺伝すると云ふ説を有する人あり。然れども之れを事実上証明し得ず。之れはマンハイム氏の説によれば明なり。

伝染説。癌腫は B. 或は動物性寄生物によりてなると云ふ人あり。之れも尚不明なれども、経験によるときは面白き説にして、昔は伝染せずと曰へり。或る書に女子の生殖器に生ずる癌腫が男子の生殖器に伝染せざるは、癌腫の伝染せざる証明なりと云へり。后之に反して女子の生殖器の癌腫が男子の生殖器に伝染したりと曰へり。而し全く信ずる所なきにあらず。然れども之れは癌腫細胞が男性生殖器に侵入して生ぜしかも不明なり。故に誘引なるか、又は伝染なるか、又は転位なるかは不明なり。

癌腫の種類

細胞の形によりて別つときは、次ぎの如し。

1、Carcinoma Sinplex (Polymorphozellinges C.) 多形性細胞癌腫

之れは大なる腺器より發生す。例へば乳腺・睾丸・肝・膵臓・唾液腺等より發生す。其器官の全部を癌腫性に変化し、其周囲に迄に癌組織が進入す。鏡的の構造は、細胞の巢が多形癌腫細胞よりなる。其癌細胞は円形なるあり。骰子形・多角形・円柱形なるあり。又膀胱の深層の上皮の如く瓶状になるあり。其巢は多き或は僅の間質によりて界せらる。其結締組織の多少によりて癌腫に硬軟あり。肉眼上には一般の所に述べたる如く特別の形なし。此癌腫は全器官の細胞が癌腫性に変化して、他の組織より發生せしものにあらず。故に多少元器官の細胞に性質及作用も類する事あり。即ち乳腺に生ぜしものを見るときは、多数の癌細胞は乳腺の腺胞を作る。骰子形の細胞よりなり、健康のものに比すれば大にして、色素の着色性強く、排列不規則なり。作用上類するは癌細胞が変性す。即ち健康のものは脂肪変性して乳汁を形成す。

2、Carcinoma Kankroides (Plattenepithel C.) (Kankroid) od. Horn Krebs 扁平上皮癌 (蟹足腫) 或は角質癌

之れは皮膚又は扁平上皮を有する粘膜より生ず。其粘膜は口腔・喉頭の上半部は皆扁平なり。又鼻腔の上部・食道粘膜・泌尿生殖器の粘膜なり。此癌腫の特別なる形は、皮膚又は粘膜に不規則なる肥厚を来す。其肥厚部は周囲の境界不明にして、腫瘍の突起を出す事、蟹足の如し。其表面は破壊して潰瘍を生ず。之の潰瘍は悪性にして治し難し。之れを *Ulcus Rodens* 蚕食性潰瘍と名け、其床面又は周縁に癌腫の組織が表はれ、灰白色又は白色を呈す。潰瘍の周りは厚くなりて硬し。之れを堤状浸潤 *Wallartige Infiltration* と名く。

鏡的の構造。之れは此癌腫に於て特異なるものあり。即ち此癌腫の細胞巢は皮膚の粘液層に比すべき細胞と棘層 *Stachebschicht* (角質を含む層) の細胞を有す。其巢の形は不規則にして、切片上は一定の形を有せず。蕾状或は索状を呈し、大も不定なり。其細胞の排列は、巢の中心部に存すると周囲に存すると常に異なる。中心部の細胞は、其最も中心部に於ては一つの角質に変化したる上皮細胞よりなる。其角化せる上皮細胞は、互に密に重なりて求心的層状を呈す。而して其部には其細胞中に核の無きときあり。又存するも核は扁平となる。其扁平となりて細胞の大は可なり大なり。恰も扁平細胞を横断面に於て見るときは、殆ど半月状になる。其原形質は水分消失して乾きて、硝子様物質を見る如く光線を屈折する作用を有す。其細胞の状より考ふるに、健康なる皮膚によりて吾人が知る角層 (最も外層) と同値のものなり。故に其配列異なるのみにして、皮膚にある成分が茲に存すると見做すを得。此扁平の角化せる細胞が周囲の方に向ふに従ひ厚くなる。同時に核が著名となるか、又は核が紡錘形なりて表はる。即ち核が増大するなり。尚周囲に進むときは、茲には粘液層の細胞に移行す。此細胞も健なる皮膚中の細胞に類す。健なる皮膚中にある粘液層中の細胞は多形性なり。之れと同じく巢の周囲には種々の形を成せる細胞あり。就中、注意し得るは骰子形或は多角形細胞なり。最も周囲即ち結締組織に接する所は高経増し、円柱上皮と間違ふ程高くなる。而して此の粘液層は比すべき細胞の原形質の間には細胞間橋と名くあり。橋は線状に表はる。之れは細胞間の繊維にあらずして連合質なり。此細胞を独立さして想像するときは、針を有する細胞と考へらる。故に此細胞を *Riffzellen* 棘状細胞と名く。斯かる細胞巢の間には、多少結締組織の間質あり。

3、Carcinoma Cylinderzellularae (C. Adenomatosum) od. Cylinderzelliges C. od. Cylinderepithel Klebs 円柱状上皮癌又は角柱状細胞癌

此ものは管状腺の組織より生ず。或は葡萄状腺の排泄管或は円柱状の被蓋上皮を有する粘膜より生ず。故に腸胃の粘膜より能く発生す。其他凡ての腺の排泄管より発生す。故に例へ腺の構造が葡萄状腺に属するも、必ず癌腫が葡萄状癌を発生するに限らず。円柱上皮癌を発生す。即ち必ず一種の癌腫を生ずるに限らず。例へば乳腺には円柱上皮癌又は葡萄状癌を生ず。尚注意するは上皮細胞の化生なり。元来健康なる或る組織にして円柱上皮の外、何れも持たざる筈なるに、扁平上皮癌が生ずる事あり。胆嚢又は胆道は円柱状上皮を有するに、扁平上皮癌が発生す。之れは胎生学上は扁平上皮の芽が転位せしと云ふよりも、化生したると云ふが可なり。又一つの器官にして、元来一種類の上皮細胞を有するに限らず。其部に発生したる癌腫は一部分は円柱上皮癌の性質を有し、他の部分は接し又は混じて扁平上皮癌の構造を有す。此発生は化生によりて生ずると曰へり。之れ等の癌腫を **Doppel Ca.** 重複癌腫と名く。胆嚢に発生せし例なり。円柱状上皮癌の肉眼的の構造は、粘膜に生ずるときは広く浸潤して粘膜を厚くす。又表面潰れて潰瘍を生ず。其状より云ふときは、皮膚に生ずる扁平上皮癌と同じ。顕微鏡に検するとき、種々の形を呈する巢又は蕾或は索状を成して表はる。其巢又は索状の中央を見るときは、常に多少の間隙あり。此間隙は腺の排泄管の間隙又は腺腔の構造に一致す。又円柱被蓋上皮・腺の排泄管及管状の腺体を作る。腺細胞は発生学上、右と同種の者なり。故に斯かるものの中、何れの細胞より癌腫が発生するも、必ず管状腺又は腺の排泄管の如き構造を呈す。其一々の細胞は円柱状なり。時として細胞の表面に繊毛を有する事あり。此細胞は繊毛を有する円柱上皮より癌腫が発生したるときに見る。而して此腺腔内には円柱状細胞の破壊したるものが充たさる。然れども時として原器官の性質に似たる同様な作用を営む事あり。例へば胆道より発生せし癌腫にして能く其癌細胞中より胆汁に類似したる液を分泌す。

細胞巢と間質との関係によりて癌腫を区別するときは左の如し。

4、Carcinoma Skirrhosum (Skirrhos) od. C. Fibrosum 硬癌又は繊維癌又は萎縮癌

之れは肉眼上の名称なり。組織学上には余り大なる関係あらず。唯、此癌腫は肉眼上、性質は癩痕組織の如く堅く、而して癌腫性になる組織が健康のものより縮小す。即ち此の癌腫が粘膜を生ずるときは、其所は陥没す。硬き故に細胞發育は他のものと異ならず。浸潤性に發育す。唯、發育の時間に関して緩慢なり。時として此癌腫が結締織化して、全く癌細胞の消失する事あり。此癌腫は發生位不定にして、皮膚或は粘膜或は腺器官よりも生ず。然れども多く空間を有する器官、例へば胃に生ずるときは癌腫自己の進行は甚だしからざれども、空洞が閉鎖するか又は狭窄す。故に悪性なり。鏡下に検するとき、細胞の定形は一定せず。不同なり。或る時は扁平上皮癌の定形を有し、或るときは単純の癌腫の定形を有す。即ち多形なり。或時は円柱上皮癌の定形を有す。此の異なるは、此の癌の發生したる所に関する。即ち皮膚より發するとき、細胞は扁平上皮癌の定形を有す。此細胞巢は甚だ小にして、一つの巢は一つの細胞或は二三の或は十数個の細胞よりなる。普通の癌腫の巢は、斯く少数よりなるにあらず。小さくとも数なり。数百の細胞が集りてなす。又所によりて癌腫の細胞は消失して結締織のみよりなる。尚ほ其所に残る細胞は、他の癌腫の場合に見る如くあらずして萎縮す。尚變形す。間質は厚き纖維性の結締組織よりなる。其間質と巢とを比するとき、間質が分量多く能く發育す。

5、Carcinoma Medullaris 髓様癌

之れは前者と反対なり。之れは肉眼上、柔軟にして切断面は脳髓の白質を見る如く、其面より多くの癌乳を出す。粘膜・皮膚・大腺器官よりも生ず。發育早く破壊し易し。又転位する事も早し。従て悪性なり。鏡下に見るときは、巢は大きく間質は痕跡となる。故に之れを早計に看過するときは肉腫と誤る。故に蜂窩状の構造を屢々見る事能はず。殆ど其癌腫は癌細胞よりなる如く見ゆ。定形は一定せず。或るときは扁平、或るときは円柱、或るときは単癌の定形を有す。

6、Carcinoma Cysticum (Cystocarcinom) 囊腫状癌

囊癌は囊状の腺腫のあるときと同じく癌腫の囊状を呈するなり。其外觀、腺囊腫に類し、乳を多く有する腺状の組織が多く集りて大なる囊癌を形するなり。此の癌腫は初より囊状にあらず。始めは円柱上皮癌の定形を以て始まり、腺腔中に多量の粘液質が發生し、為めに大囊を作りしなり。或は始めは良性の囊腫にして、后より癌腫性に變化

せしものなり。故に其発生の場合も、囊腫の発生する場所と同一なり。就中、卵巣は囊状の癌腫を発生す。単純の囊腫と異なる所は、囊癌にありては其發育早く周囲に向けて増加し(組織)、尚腹腔内に囊癌の上皮細胞が転位し、其所に独立せる囊癌を発生す。転位したる上皮細胞は、転位と云ふよりも散種 **Dissenation** と云ふが可なり。大なる囊状腫が腹腔内に生ずるときは、循環障害を生じて腹水を生ず。其ときは癌細胞の分離したるものが浮遊す。それが腹膜面に附着し、分裂して囊腫を形るなり。其細胞が腹水中に入るは、囊状癌腫の壁を形る結締組織が破れて、其際上皮細胞が粘液と共に腹水中に入る。或は破裂せずとも上皮細胞(癌細胞)は囊状癌の膜を越へて表面に広がるを以て、表面のものが分裂して腹水中に入るを得。囊癌中にも二つの肉眼的の異なる種類あり。即ち乳嘴状の増生物を有すると滑沢の増生物を有するとあり。鏡下に見るは、大約普通の囊腫と同じ。即ち大小種々の形を有する間腔が全体を形り、囊と囊との間には結締組織ありて囊の堺を成す。内面を被ふ上皮細胞は、普通のものに於ては単層の円柱状上皮か、又は単層絨毛上皮よりなるが、此囊癌の時に重層となる乳嘴を有するときは、乳嘴を被ふ上皮細胞も重層なり。尚此上皮細胞は中央にのみならず周囲の結締組織の中に細胞が浸潤す。

7、Carcinoma Placentale (Maligenedeciduome) od. Syncidiome 悪性の胎盤腫、或は胎盤性の癌腫、又はシンチヂイム上皮癌、又悪性脈絡膜上皮腫

之れは胎盤の一部分が子宮粘膜に附着して残る事あり(分娩の際)。其残りが脈絡膜上皮細胞、一名脱落膜上皮細胞が増殖して一つの腫瘍を形る。之の細胞が癌細胞と同じく悪性を有す。故に癌腫中に如く肉眼的の性質は分娩後数月、数年の久しき間、子宮の体の粘膜に結節状或は浸潤性に發育する組織、即ち粘膜の肥厚が起る。而して腫瘍の細胞が子宮壁即ち筋層中に侵入し、遂に其人を死に至らしむる如き悪性を有す。死する前には悪液質が起りて死す。切断面及表面の状態は、子宮粘膜より生ぜし他の種類の癌腫と区別し難し。鏡下に見るときは特異点あり。即ち巢の細胞あり。即ち此細胞は普通の癌腫に於て見ざる大なる形を有し、其細胞は原形質が多量にして、形は不正形なり。其中には数個—数十個の核あり。故に多核細胞なり。勿論此細胞は扁平細胞なり。此細胞の傍らに多角形にして非常に小なる原形質と小なる円形の核を有する種類の異なる細胞あり。此細胞は **Langhans** 氏の上皮細胞と名く。之れも扁平なり。

之れ等の細胞より生ずる巢が結締組織の間質により区別され、蜂窩状の構造を呈し尚間質を作る。結締織は屢々粘液変性する事あり。それは胎生的の即ち未熟の結締組織なるを証するに足る。此癌を作る両細胞は普通の胎盤の外面を被ふ上皮細胞にして、特別に生じたるものにあらず。此の場合に於ては生理学上の作用が異なるのみなり。

8、Carcinoma Gelatinosum od. (C. Calloides) 膠様癌 (粘液癌)

之れは癌腫の定形は恰も円形上皮癌の定形にして、癌細胞の巢が粘液化するにより生ず。此の癌腫の肉眼的の構造は、常に其場所によりて差あれども、皆浸潤性なり。其発生位が胃或は腸の粘膜なるを以て、之れに発生するときは通常腸胃の壁を癌細胞が通り、漿液膜・腹膜・大網膜の方に次第に広がる。其腫瘍は軟にして膠又は寒天様なり。而して透明なり。之れは粘液の色なり。故に従て腫瘍を切るときに粘液を出す。此粘液はムチンを含有す。發育早く、腸胃の粘膜より生ずるときは全腹腔内の諸臓器に転位して、其組織を癌腫性に変性す。其一片を鏡下に検するとき、強く粘液変性に陥る。巢と間質とよりなる巢は、粘液化するを以て硬化せざるときは透明無組織なり。其中の僅に癌細胞の残りあり。又或る巢は全く粘液化して癌細胞に見えざる事あり。然れども小数にありては粘液僅にして細胞は多く存す。此時は円柱上皮癌の定形を有するを知る。之れを硬化して見るときは、一層明なり。ヘマトキシンにて染色するときは、青く繊維状になる癌細胞が其中に染るときは、円柱上皮の外中半粘液化する細胞を見る。此癌腫に際し間質が粘液化する事あり。又粘液化せざるときは他の変性、例へば硝子様変性の如きを伴ふ。

9、Carcinoma Myxomatosum 粘液腫様癌

之れも肉眼上の性質及発生部位も能く前者に類す。鏡下に於ては異なる。此際、癌細胞の巢は変性せず。或るときは円柱細胞癌、或るときは単一癌の定形を有す。間質は全く發育終りし繊維性の結締組織にあらずして、幼稚なる結締組織の定形を有す。即ち粘液腫に於て学びたる構造を有す。故に粘液腫様癌と名く。

其他黒色素癌・巨大細胞癌等が時として見出さる事あり。然れども之れ等は稀にして、原発性に生ずるものにあらずと思ふもの多し。故に之れ等は続発性に他の癌腫より転位したるものなりと曰へり。例へば巨態細胞癌は肉腫に於ける如く、始めより巨態細胞を生ずるにあらず。即ち癌細胞が多く癒合して巨大細胞を作り、或は癌細胞が浮腫

して巨大細胞の如くなる。黒色素癌は今日にては殆どなしと云へり。是迄表はる黒色素癌は、黒色素肉腫と誤解せるならん。然れども癌腫の時にも稀に細胞中に色素を認め得。然れども肉腫の如く平等に色素が存せずして散在性に存在す。

癌腫の起源

癌腫は幼きものに少く、老人に多き腫瘍なり。青年のものに来るものは稀にして、腎・卵巣・摂護腺より発生する癌腫は比較的小児にあり。其等の器官を除くときは老人に多し。近時迄は老人にのみ存し、中年のものに非ずとせり。而れども進歩するに従ひ中年者にも癌腫を生ずる事を確に証明せり。即ち稀に胃・皮膚等に発生する事あり。中年者中にてても、予が経験に十九歳にして胃の癌腫を発生せし事あり。又二十歳程にして発生せし事あり。男女に於て多少の差異あり。男子にして最も癌腫に罹り易きは、胃・食道・口腔・皮膚等なり。女子に於ては生殖器、殊に子宮・乳腺等なり。此の差あるは恐くば生理学上の原因より関係あるが如し。即ち刺戟が誘引か、又は原因となるかは大に考へざるべからず。

Gliom 神経膠質腫

之れは其構造学上より云ふときは類組織腫瘍中に入れざるべからず。然れども発生学上より曰ふときは、類臓器腫瘍中に入れざるべからず。何となれば之れは起源が外胚板性の腫瘍なるを以てなり。即ち上皮細胞と親族なり。グリオームは神経の間質を作る組織・脳髄・脊髓等には多量に存する組織なり。其他脳室及脊髓中を走る脊柱管の内面を被ふ Ependym Epithel (" Zellen) Glia (神経膠質) よりなる腫瘍をグリオームと云ふ。

之れに硬性・軟性のグリオームとあり。

軟性のものは脳又は脊髓の白質又は灰白質中に結節状の軟なる腫瘍が発生す。其腫瘍は小なるものは豌豆大、大なるものは脳髄の大部分を占むる大を有す。其腫瘍の切面を見るときは黄色又は赤色を呈し、周囲と明に区別さる。之れを鏡下に検するとき、グリアの細胞及グリアの繊維よりなる。前者は多形性の細胞にして一―二の核を有し、其周囲には多少の原形質を有し、それより多少の突起が出で吻合してグリアの繊維を

形る。此繊維は細胞の突起にあらずと曰ふものあれども、茲には突起となす。之れは元より硬化したる時に突起の如く新鮮なるものは繊維は粘液様の液体なりと曰へり。之れが死するときは凝固して繊維となると曰へり。然れども不明なり。繊維中には多少の毛細管あり。之れが多きときは赤色、少きときは黄色を呈す。尚黄色を助けるものはグリアの組織の脂肪変性なり。時としてグリオームの組織中に脳の神経節細胞を含有する事あり。然るときは含神経節細胞グリオームと名く。斯く軟性のものは脂肪変性し易く、軟化して空洞を作り其中に粥様物を有し、或は透明の液を有する事あり。此の腫瘍を發するは胎生児に多く、時として先天性に生ずる事あり。又時としてグリオーム肉腫の状態となりて存する事あり。單純のグリオームなるときは、良性なるを以て脳膜の方に広がらず。且つ諸所に転位せず。然れども肉腫を混ずるときは全く相反す。

硬性のグリオーム。之れは主に脳室或は脊柱管の中に發生するものなり。而して通常エペンデウム細胞よりなる。故に軟性のものとは多少異なる。胎生学上に於ては同一なれども、形態学上異なる。此時には癌腫又は腺腫に類する状を有す。エペンデウム細胞は扁平多角形の細胞、又は骰子形なり。或は円柱状にして其表面に顫毛上皮を有する事あり。之れより發するときは、上皮細胞が増加して上皮細胞が腺の如く排列して管状腺又は葡萄状腺に見る如し。腺の小葉の間には結締組織あり。其中に血管あり。尚神経膠質の細纖維を含有す。而して其形は乳嘴状の腫瘍、或は蕈状腫瘍の如く突出し、之れを触るゝときは硬し(脳室中は)。故に之れを神経上皮腫 Neuroepitheliom と名く。此腫瘍は性質は良性にして転位せず。然れども發生位が大切なる所なるを以て、危険は他の部分に生ずるものとは甚だし。以上の二つのグリオームの外に、眼球より發生するグリオームあり。之れは前の中樞神経系より生ずるものと構造を異にし、悪性なるを以て特に述ぶ。

眼球の網膜より發するグリオーム

之れは始めは小なる結節状の腫瘍となり薄き層中に發生し、それより周囲に浸潤し硝子体中及脈絡膜及硬脳膜の方にも浸潤し、遂に眼球の外方に迄で浸潤し、尚それより脳膜及腦の実質に広がり、而して盲目となるのみならず、死亡さす事あり。故に悪性なり。通常先天性に来る。之れは生后三歳迄に多く、大人には少し。多くは両眼を冒す。

又屢々多数の兄弟姉妹の間に遭遇するものなり。又遺伝の關係を証明す。之れは眼の内外の顆粒状層より始まり、他部に広がる。之れを鏡下に検するとき、小円形細胞よりなる。故に恰も小円形細胞肉腫を見る如し。元の小なるは内外顆粒状層の増加したるものなり。又細胞間には幽微なる細胞間質及毛細管を存す。故に一見肉腫に類す。只其細胞中に、即ち脳膜の上皮細胞中に腺の如き構造を成して存する事あり。脳膜の上皮細胞は桿状体・円錐体とよりなる細胞を含む。之れが腺の如き構造を呈す。其外時として此腫瘍が血管肉腫の如き構造を有する事あり。即ち毛細管壁が腫瘍の細胞より形らる。然れども必ず常に証明するものにあらず。

Endthelium 内皮腫

之れは内皮細胞よりなる腫瘍なり。内皮細胞とは人々によりて解釈異なる。発生学上より曰ふときは、中胚板より来る。配列上より曰ふときは、外胚板より来る。即ち上皮細胞に類す。故に此内皮腫は上皮細胞より生ずる腫瘍と能く構造類す。故に之れを類臓器腫瘍中に数ふ。内皮細胞は中胚板より来ると仮定すれども、変化するか不明なり。何となれば形態学上より曰ふときは、内皮細胞は内外胚板より上皮細胞と区別し難し。即ち内皮細胞は管系統の内面を被ふものなり。即ち血管・淋巴管の如し。即ち被蓋する作用を有す。故に之れより生ずる腫瘍が又上皮細胞より生ずるものと明に区別し難し。只一定程度迄は区別し得る。故に内皮腫には起源二つあり。即ち血管性の内皮腫及淋巴管性の内皮腫とあり。后者は淋巴管系統より生ずるものなり（淋巴間隙に生ずるものをも加ふ）。前者は太き血管又は毛細管よりも生ず。尚后者は種々の漿液膜腔より発生するものも淋巴性の内皮腫に属す。即ち漿液膜腔は大なる淋巴管腔と見做すを以てなり。例へば肋膜腔・硬脳膜腔より生ずるものも后者に属す。

肉眼的の構造は堺正しき結節状の腫瘍なれども、発位によりて多少差あり。之れには硬軟あり。之れは結締組織纖維の多少による。又結締組織又は蕾の変性に関する。其色は白色又は帯紅灰白色又は黄色なるあり。但し表面の間を隆起する腫瘍は、蕈状又は茸状を呈す。例へば肋膜・腹膜の内皮より生ずるものの如し。其他脳膜殊に硬脳膜及皮膚より生ずるものは、球形の結節を作る。或は広き板状に広がるものあり。

鏡下に見るときは、癌腫の組織と同一なり。故に或るときは癌腫と区別し能はざる事あり。即ち内皮細胞の索状或は蕾或は巢を形成す。而して其間には有血管結締組織あり。

り。故に一見癌腫に類す。故に区別点は発生部位なり。即ち上皮のなき所より此の腫瘍を発生するとき、大部分内皮腫なりと曰ふを得。然れども絶対的に曰ふを得ず。即ち上皮細胞が変位して生ずる事あるを以てなり。然れども組織学上内皮腫なる証明を助ける機会あり。之れは細胞の巢・索状が細き事なり。癌腫の時はそれ等が太し。唯、二個程の細胞が平行して索状又は巢を形成す。其巢・索状等は種々の方向に吻合して昔の毛細管又は淋巴管隙なる事の痕跡を残す。然れども常に斯くあるにあらず。時に癌腫の時の如く、多くの細胞より集りて太き索状又は巢を形成する事あり。其他組織学上証明するものあり。即ち巢又は蕾の中心部に空洞あり。此中に血液が入るか、又は淋巴液入るときは最も明なり。然れども之れは稀なり。即ち空洞が細胞を以て充さる事屢々あり。此時は単一癌と区別し難くなる。故に癌腫と内皮腫との区別は困難なり。二三年前迄は此の区別無かりしなり。内皮腫細胞の形は、形態学上癌腫の細胞と殆ど区別し難し。若し之れを一々離して見るときは、鑑別は困難なり。何となれば癌腫の細胞と同形を有するなり。故に極めて多形にして円形・楕円形・骰子形又は円柱状又は扁平の内皮細胞もあり。尚類似するは一定の場合に角化する事なり。故に内皮腫も癌腫の時の如く角小体を生ずる事あり。即ち求心状に形る角小体なり。然れども角小体を作る内皮腫と同じく、癌腫の区別は蕾又は巢の周囲の細胞を大なる拡大力の鏡にて検するとき、内皮細胞なれば棘状細胞はなし。内皮腫は発生時期定まらず。老人・小児に区別なし。最も多く発する位置は漿液膜なり。即ち硬脳膜・肋膜・腹膜等に発生す。又粘膜又は皮膚より発生する事あり。通常良性にして発育緩慢なり。

Teratoide Geschwulste 類畸形腫瘍 od. Teratom 畸形腫

之れは其構造複雑にして、三胚板に属する組織を一つ腫瘍中に含有す。尚此外に説明せらるゝものあり。それは単純の組織よりなる腫瘍にても其発生位が尋常のものと異なるもの、即ち **Heterotope Gewebsneubildung** 異所的の組織新生と名く腫瘍も此中に加ふ。テラトームの中には複雑及単一の畸形腫に列せざるべからざるなり。即ち単一なるものは異所的組織新生を云ふ。複雑なるものは三胚板に種々の組織を含む腫瘍を云ふなり。故に単一なる畸形腫には、類組織腫瘍及類器官腫瘍が此所にて再び反覆さるなり。例へば耳下腺及睾丸中の軟骨腫及骨腫なり。之れは構造は類組織腫瘍なり。而して場所により云ふときは、異所的の組織新生なり。即ち軟骨は其所も存せず。又

骨腫の生ずるときは、又単一の畸形腫に加ふ。此外筋中の骨腫も単一の畸形腫なり。又皮膚及粘膜に生ずるも同じく単一なり。又腎中に横紋筋腫又は平滑筋腫が生ず。之れも場所上より云ふときは単一なり。斯く場所が生理的に異なる所に生ずるなれば、皆単一なり。又脳髓の組織に脂肪腫が生ず。之れも単一の畸形腫なり。以上の畸形腫は皆実質性なり。故に之れを実質性の畸形腫 **Solide T.** と云ふ。之れに反対に **Cystische Einfache T.** 囊状単一畸形腫あり。之れは構造上より云ふときは類器官腫瘍にして、発生位より云ふときは畸形腫に属す。其形は囊状なり。此の囊状単一の畸形腫中には囊状腺腫の構造を有する腫瘍あり。之の囊腫を大別するときは、外胚板性の上皮細胞よりなる単一囊状畸形腫と内胚板上皮よりなるものとの二つあり。外胚板性の上皮よりなるものは、通常粘膜下皮下或は稀に脳腔（頭蓋腔）に発生す。粘膜皮下に発生するときは、之れを **Grütz Geschwulste (Breiartige)** 糜粥腫又は **Atherom** と名く。通常大き豌豆大—握拳大なり。通常球形にして皮膚と附着するあり。又附着せずして動くあり。諸所に生ず。之れを俗間には疣と名く。其れに切るときは豆腐穀の如きあり。即ち灰白色又は白色にして、其中にもろもろしたるものが入る。時として脂肪様の光沢を放つ事あり。其内容を検するときは、上皮細胞の脂肪変性したるものと脂肪とを含有す。其中又短毛を含有する事あり。其囊壁は結締組織よりなる壁あり。其内容は重層の扁平上皮よりなる。或るときは其壁中に毛嚢あり。其中より毛が出ず。時として尚複雑なる皮脂腺及汗腺等あり。然れども結締組織の膜及重層の上皮細胞のみよりなるものあり。其毛を有すると否とによりて名を異にす。無きものは **Epidermoide (-dcyste)**、有するものを **Dermoide (dcyste)** と名く。其他粘膜の下にて生ず。又頭蓋腔に毛を有するものと否らざるものとが生ず。通常軟脳膜の外面に小なる囊腫となりて発生す。即ち小膜あり。其内面には重層の扁平上皮あり。之れは多く剥脱せずして角化し、求心的に層重して共に囊中を充たす。故に此腫瘍を切るときは、灰白色脂肪様光沢を放ちて乾燥す。其外観を人が真珠色に譬ふ。故に之れを真珠腫 **Perlgeschwulst od. Cholesteatom** と名く。即ち角化せる上皮を鏡下に検するときは、コレステアリンを含有するを以てなり。其真珠色はコレステアリンを含有する為めなり。外胚板性の囊腫は、組織の芽が迷入して腫瘍の基礎を作りしなり。之れは后天性にも生ず。即ち外傷性の囊腫なり。即ち外科的又は偶然外傷するときは、其傷の治する際、組織の芽が深部に転位す。后、傷の癒痕組織の中より畸形腫の如き囊腫が生ず。之れを外傷性の上皮囊腫（有毛・無毛）と名く。

内胚板より生ずるものは、先天性に頸嚢腫 **Halscyste** あり。之れは中は透明又は混濁する液の存する軟嚢腫なり。内胚板性上皮の迷入したるか、又は内胚板性の器官が一部分閉鎖せずして残り、それより嚢状になり、或は胎生学上内胚板性の器官（后々迄で残る器官）、即ち食道・気管が溢れ、其れが基礎となりて嚢腫を作る。此外 **Enterocyste** 腸管嚢腫あり。之れは腸腔、殊に腸間腔に多く生ず。而して腸壁に類似す。結締組織と筋層及内層は、円柱状上皮よりなる。頸嚢腫も之れと同じく上のものを存在す。此腸腫は又粘液を含有す。尚 **Urachusyste** 尿管嚢腫あり。即ち尿管の一部が溢れて基礎となりて生ず。尚内胚板より生ずる種々の器官より離れる時は、同様のものを生ずる事は明なり。以上のものは皆単一なるものなり。

複雑畸形腫。之れは実体性及嚢状性の畸形腫とあり。

複雑性固形畸形腫とは卵巣・辜丸其他の粘膜、口腔・鼻腔・尿道・膀胱等の粘膜に結節状の腫瘍を生ず。大は一定せず。其腫瘍は粘膜の中、或は腺組織の中に生ずるにも拘らず、一部分は皮膚の如き構造を有する所あり。一部分は腺の如き構造を有す。結締組織及脂肪組織・粘液組織・骨・軟骨組織、又は筋組織を含有す。時として尚ほ其中に脳髄の一部と見做すべき組織の入る事あり。或は其中に末梢神経を含有し、又眼球の網膜中の色素細胞に比すべきが入る。又は肉腫又は癌腫の組織の入る事あり。極めて複雑にして従て膀胱の粘膜又は鼻腔より生ずるときは、茸状となりて其表面が重層の扁平上皮よりなり、其上に毛を有す。故に之れを **Haarpilz** 毛茸と名く。殊に卵巣又は辜丸より生ずるものは大なり。而し毛を有する事は稀なり。

複雑性の嚢状畸形腫、一名複雑性の皮膚様嚢腫 **Complicirte Dermoide od. Enbryolome** 胎児腫

之れは大は握拳大一人頭大が通常なり。発生位によりて大き異なる。最も大なるは卵巣なり。其他にも生ず。即ち尾間骨・薦骨・腹腔内・胸腔内に生ず。通常大なる嚢は単房なり。時として多房なる事あり。其壁は厚し。此の厚き複雑なるを証明す。外面は結締組織より包まれ滑沢なり。嚢中には豆腐糟の如く毛髪脱落したるものを含有す。毛は人頭に存する毛の如く長く、一二尺もあるあり。其量は多きあり。又少きあり。其きらずを洗ひ出して嚢の内面を見るときは実測不平なり。或は堤状に隆起するあり。或は組織の不規則なる塊となり、或は隆起物の表面に毛生ずるあり。其外他の部分に

歯牙の生ずる事あり。時として内面に乳腺に類するものあり。或は時として著名なる器官、即ち指又は手、或は上肢、或は下肢の一部の存在する事あり。其内面は皮膚より被はる。従て其中には毛生ずるなり。或は皮膚を切りて厚き壁を見るときは、骨片又は軟骨片或は脳髓様の組織、又は腺組織の如きが存在す。其腺中皮膚に属するあり。又皮膚に関係なきものあり。即ち甲状腺の如き、又腸管の一部の如き管腫あり。又時として眼球の如き器官あり。其壁を切断して鏡下に検するとき、皮膚の構造を有し、其中には凡ての成分を有し、其外皮下結締組織・皮下脂肪組織・皮下筋(主に横紋筋)、又神経あり。其他肉眼上の種々の器官が能く其組織に見るを得。然れども複雑なる腫瘍なれども肝腎心の如きを見る事なし。而し心筋は近来存すると云ふ説出でたり。又甲状腺の如きも其中に膠様物が入りて膠様甲状腺腫を形する事あり。

此腫瘍中に肉腫又は癌腫の如き組織を含む事あり。又此の腫瘍が悪性となりて転位する事あり。此時は肉腫又は癌腫が発生する証明なり。斯く此の腫瘍は發育緩なり。既に先天性に基礎を有す。然れども生后已に一定の大きに達するものは稀なり。小児の間に此の腫瘍の存する事は不明なり。然れども尾間骨又は薦骨に生ずるものは破格に見能ふ。之れは通常中年に及んで明瞭となる。即ち發育早く一定の大きに達するを以て中年に認め得。胎生の始めに芽が遊走して諸組織中に迷入す。即ち双芽性及単芽性とあり。故に双子等を生ずる事あり。

腫瘍様の新生物 Geschwulstartige Neubildung

之れは嚢状腫瘍なり。故に之れを *Cyste* と名く。之れを発生学上より別つときは左の三つとなる。

一、Retentions Cyste 閉止性の嚢腫

或る組織の間隙又は已存の間腔、即ち腺腔又は腺の排泄管腔又は淋巴管隙等の中に分泌物又は産出物が蓄留して排泄道の閉じるときは、分泌物の増すに従ひ間腔は大となりて一つの空洞を造り、其中に分泌物が入る。同時に壁肥厚す。故に周囲より明に界せられたる独立様の嚢腫を生ず。大腸より発するものと小腺より発生するものとあり。前者は例へば種々分泌腺、即ち肝・膵・唾液腺等の如し。為めに腺の実質は液の為め圧せられ萎縮し、一つの結締組織よりなる大なる嚢となる。嚢の内面は上皮細胞を有すると否とあり。其中の液体は場所によりて異なる。透明なるあり。混濁するあり。

血液を混ざるあり。大なる腺より成りたるものをがま腫と名く。之れ等は舌下腺又は腭臓より主に生ず。其他乳腺・睾丸・虫様突起等に生ず。部分により其名を附す。而して小腺より発するものは、粘液腺又は腸胃の壁に存するか、葡萄状腺又は管状腺又は汗腺・皮脂腺等なり。此時に小なる囊腫を形り、其中には液ありて破出するときは治癒す。かの子宮の頸管に生ずるナポット氏の球と名くるものあり。之れも同様なり。其他淋巴管腺等に於ても生ずる事あり。又腱に生ずる事あり。

二、Erweichungs Cyste 軟化囊腫

壁は薄き結締組織よりなる。之れは脳髄中に出血する事あり。而して小空洞を作りて囊腫を生ずる事あり。

三、Fremd Körperchen Cyste フレムド小体囊腫

之れは動物性の寄生物が組織中に入るときは寄生物を包む為め周囲より結締組織が出で、其結締組織中は液体を存するを以て囊腫を形る。即ちトラヒナの子虫・条虫の子虫等より生ず。

固形性の腫瘍様の新生物

Epithelioma Contagiosum 触接伝染性上皮腫

之れは皮膚に生じ、小豆大より豌豆大に達する結節状のものなり。皮膚より隆起するあり。時として陥没する事あり。其表面は陥没す。此の腫瘍を発するときは、陥没部より白色の乳様物が出ず。其表面は上皮細胞より被はる。乳様物は鏡下に見るときは、上皮の剥脱したるものにして角化せり。一部分が脂肪変性に陥る。故に核はなし。而して上皮細胞内には尚不明の楕円形の小体あり。其大は赤血球程なり。人によりて之れをマクチジュームと名くる寄生物ならんと曰へり。又其中より B. を見出したると曰へり。其れが原因となると曰へり。此組織を鏡下に見るときは、結締組織と上皮細胞と蕾よりなる。結締組織は有血管結締組織にして、真皮の一系なり。之れが中心部に向て皮膚の乳嘴体の如く延長す。而して一々の蕾を別つ。中心部の血の中には角化せる乳汁様の角化せる上皮細胞の剥脱したるものが存在す。

Teratologie (Missbildungslehre) 畸形学

畸形とは先天性に一定の形の異なるを云ふ。常に異なるに種々の度あり。軽度の異常も一つの畸形なり。重度のときも之れを加ふ。軽度なれば之れを異常 *Abnormität* と名け、高度のものを *Missbildung od. Monstrum* 畸形と名く。之等の原因は先天性に即ち人間が卵のとき、或精虫の時、畸形の原因の存するあり。或は二つのものが合して胎児となりて、それが生長する経過時に發育の障害を来すものあり。發育の障害を起す作用を別ちて次ぎの如くす。

一、*Petale Krankheit* 胎生時の疾患

之れは后天性に来る疾患に似る。即ち循環障害及水腫が起る。或は炎症が起る。勿論其諸病は母体にありて後、胎児に及ぼすあり。或は母体健康にして胎児にのみ来る事あり。

二、機械的作用

胎児が發育する時に母体が打撲又は仆れる等によりて外傷を受けて変化す。或は胎児の卵膜が狭き為め胎児の全体又は一部分が卵膜の為め圧せられて發育を妨げらる。

三、遺伝

通常両親、尚先祖の畸形が子孫に遺伝するなり。之れは發育障害は少きよりも過剰の發育なり。

四、特発の胎児發育障害

即ち原因を認むる能はざる障害を云ふ。而し之れは明瞭にあらず。即ち胎児の細胞の全体又は一部に生活機能が減少して畸形を生ず。

以上の畸形に就きては今日尚不明なり。

畸形の分類

之れも完全に分類するは困難なり。然れども凡そ次ぎの四つとなす。

- 1、Hemmungs M. 不足畸形
- 2、Überzählige M. 過剰畸形
- 3、Lageveränderung M. 位置の変化の畸形
- 4、Geschlechtvermischung M. 男女混合畸形

尚注意するは独りの胎児に於て起る。四種の畸形及二つ以上の胎児に於ける四種の畸形を区別す。即ち一胎或は多胎に於て畸形あるを以てなり。

単純の畸形

一胎の胎児にして不足に関する畸形なり。此者は前述の原因ありて、為めに身体の大部分又は一局部が發育の障害を起すときは、其障害に諸度あり。強度の障害にありては *Aplasia* 全欠が起る。即ち圧迫其他の炎症強度の為め、局部が全く發育せざるものを云ふ。尚稍弱度の時は *Hypoplasia* 發育不全が起る。之れと同度のものは *Atrophie* 欠乏なり。*Spaltung* 離別は發育の障害の度は發育不全よりは稍弱し。一定の發育を成すも、其のものが二三に別れる。例へば脾が一組なるが一部分溢れ、又は裂けて副脾になる。又肺が右葉が三葉なるが四葉となり、或は左葉の二葉が三葉に成る等なり。又 *Verschmolzung* 癒合があり。之れは前者と同度なり。之れは二三に別れるものが癒合したるものなり。又 *Abschnurung* 絞搾あり。之れも前者と同度にして経過も同様にして二三に別れるなり。

単胎畸形の各論

不足に因する畸形

之れは全身に来るものと一局所に来るものとあり。

前者は畸形中、最も強度なり。

Acardie 之れは最も強度にして、動物等の形をも存せず。皮を被る一つの組織の如し。之れは単胎に限らず、多胎の一方の胎児が健児の為め圧迫して萎縮したるものなり。其中幾分が四肢・頭等を凡そ想像する事を得。其想像の度によりてアカルデイを別つときは左の如し。

Acardius Amorphus 無形のアカルデイ。之れは最も強度にして前述の区別なし。

Ac. Acephalus 之れは胴体と四肢とを区別す。然れども頭の想像出来ざるものなり。故に無頭アカルデイと云ふ。

Ac. Acermus 之れは頸と頭とを想像し得るもの。

Ac. Acepus 之れは頭と四肢とを想像す。

頭に來る畸形

Cranioschisis 頭蓋骨破裂。之れは頭蓋骨が或る一部に欠如す。即ち頭が裂け脳膜又は脳髓が出ず。之れは卵膜と胎兒頭と癒着するとき起る。

Hemikranie 之れは半頭蓋畸形にして、頭の軟部と共に頭蓋の半分欠如するなり。

Anencephalie 無頭畸形。之れは頭蓋骨・脳髓なきもの。

Acranie 之れは頭蓋の上面無く底面のみありて其処に脳髓の附着するあり。又之の脳髓の無き事あり。

Hemicephalie 半頭畸形。之れは頭及脳髓が半分なり。

Craniorachischisis 頭蓋脊柱破裂。之れは頭蓋骨と脊柱の部の后なきもの。即ち脳と脊髓が露出す。

Encephalocele 之れは頭蓋骨の一部が欠如し、頭蓋の軟部を存し其の骨の欠損より脳膜或は脳髓の一部が膨出したるものが皮膚を押出して円形の腫瘍を頭又は顔面に生ず。膨出する脳膜又は脳髓の中を切る時は液体あり。之れを押圧するときは収縮し、放つときは又膨大す。之れは多く頭の縫合の所にて骨の欠損する処より生じ、顔面なれば鼻骨と前顎骨との接する処より発生す。

Hydrocephalus 大頭。之れは脳膜に來る。脳室の中に脳脊髄が増加し、其中に脳実質入りて萎縮す。骨も押広げられて紙状に薄くなりて縫際連合せずして頭に沈動を呈す。水頭とは之れなり。之れは后天性に來る事もあり。

Mikrocephalie 小頭。之れは骨及脳髓も小なり。

顔面に來る畸形

Cyclopie 之れは前脳の基礎、即ち眼球を作る部分が發育せず。眼なく眼の痕跡が眉間に眼の基礎が附着す。

Schistoprosopie 之れは顔面の凡ての部に破裂を生ず。即ち顔面破裂なり。元來顔面は数多の突起よりなる。之れが附着して顔面となる。故に附着せざるものなり。此の

破裂は数多あり。之れは高度なり。

Leporinum (Hasenscharte) 兎唇。之れは上唇が裂く。而し人中の両側に裂くると一側にて裂くるとあり。

Gaumenspalte 口蓋骨の破裂。之れは兎唇と共に来る。

Wolfsranchen 狼咽。之れは下顎・下唇なきもの。

Makrostomie 大口。下顎が二つに別れ、又は口角が割くる為めなり。

Agnathie 之れは下顎骨の無きものなり。

Am Rücken 脊柱の畸形

- 1、Rhachischisis 脊柱破裂。
- 2、Spinabifida 堆骨破裂 (Myelocele は堆骨破裂の一種)。

Am der Hals 頸の畸形

- 1、Fistula Colli Congenita 先天性頸溝。
- 側方又は正中に縦に欠けたる溝あり。之れは先天性に来る。

Am Abdomen u. Brust<腹部・胸部の畸形>

- 1、Fissura Sterni 胸骨破裂。
- 2、Ektopia Cordis 胸骨並に皮膚の破裂。即ち心臓の露出するもの。
- 3、Fissura Vesico genitalis<膀胱外陰部破裂>
- 4、Ectopia Vesico urinariae<膀胱転位>
- 5、Epispadie 尿道破裂。
- 6、Pseudhermaphrodisismus 仮性又は性有半陰陽。
- 7、Hernia Umbilicalis Congenital 臍近脱腸 (先天性)。
- 8、Fissura Abdominalis Completa 前部腹壁破裂。

Am Darm 腸の畸形

- 1、Atresia ani Simplen 肛門閉鎖。
- 2、A. ani Vaginalis 肛門と膣の閉鎖するもの。
- 3、A. ani Vesicalis 肛門膀胱閉鎖。

- 4、A. ani Urathralis 尿道と肛門との閉鎖さるもの。
- 5、Meckersche Divertikel 回腸及盲腸の壁が広がるもの。
- 6、Klakenbildung 尿道の破裂して直腸と共に大なる孔を作る。

Am der Extremitäten 四肢の畸形

- 1、Amelus 四肢のなきもの。
- 2、Abrachius 前膊及手のなきもの（又上膊のなきものあり）。
- 3、Apus 下肢の欠損するもの。
- 4、Phocomelus 手の前膊と下腿の無きもの。
- 5、Micromelus 下肢上肢あるも發育不全にして短なり。
- 6、Peromelie 四肢あるも切れたる如くなる。
- 7、Sympus 下肢の癒着せるもの。
- 8、Syndaktylie 四肢の指又は趾の癒着したるもの。
- 9、Monopracius 手の二本の癒着したるもの。
- 10、Monopus 足の癒着したるもの。

Missbildung durch Excessus 普通のものより器官の多きもの
Polymastie 多乳者。

Polydaktylie 指趾の多きもの。

Missbildung durch Vermischung der Geschlechter Characters 両性の混合、或は Hermaphroditismus (Zwitterbildung) 陰陽の混ざるもの

- 1、H. Unilateralis 偏側の畸形。
- 2、H. Bilateralis 両側の畸形。
- 3、Herateralis 交叉する畸形。

Missbildung durch Lageveränderung 位置の畸形

- 1、Setus Transversalis 横形臓躁
- 2、Invertus Viscerum 腹腔内の臓器

Doppelmissbildung (Monstraduplicitas) <双体畸形>

これは双胎児の二つが集りて一つの手を作る。原因には二説あり。

一は一卵より双胎の畸形起ると曰ひ、一は二卵よりなる双胎が互に附着す。即ち前者なれば一つの胎が二つに割け、后者なれば二つの胎が一つに成ると云ふ。

- 1、Duplicitas Anterior 前部の双胎畸形。
- 2、Duplicitas Posterior 后部の双胎畸形。

前者の中に Katadidymus あり。之れは頭、腋、頸に胸部、腹部、腰部に重複する所あるを名く。此中に種々あり。左の如し。

1、Diplocephalus 顔が二つあるもの。他のものは皆一つなり(頭の一つなるあり。二つなるあり)。此の中に更に別つ時は左の如し。

- (1) Diplocephalus Diaphthalmus は二顔なるも拘らず眼が二つよりなる。
- (2) Diplocephalus Trioph— 眼の三つよりなるもの。
- (3) " Tetraoph— 四眼よりなるもの。
- (4) " Triotus

2、Dicephalus 頭頸胸は二つあり。

- (1) Dicephalus Hibrachius 胸より上のものが二つ、上肢が二本。
- (2) " Tribrachius 胸より上のものが二つ、手が三本。
- (3) " Tetrabrachius 胸より上が二つ、左右の手あり。中の手が癒着するもの。
- (4) " Tripus

3、Ischiopagus 頭と胸とが二つ。只骨盤部にて癒着し下肢も重複せり。此の際、内臓は別々になれり。

4、Pygopagus 頭と全体とが二つあり。薦骨又は尾間骨部に附着す。此時は足二本あり。

Anadidyma (Duplicitas posterior) 后部の畸形

1、Dipygus 之れは軀幹が二個と上肢及下肢が重複す。而るに頭は一個なり。其中、上肢が二対あるものと一對半よりなるものとあり。

- (1) D. Dibrachius 三。D. Tetrabrachius 四。
- (2) Syncephalus 之れは全体重複す。而れども頭が癒着す。
- (3) Craniopagus 之れも全体重複す。而し頭の顛頂部に於ては鉛直に癒合す。即ち頭尖が附着するものなり。

Anakatadidyma (Duplicitas parallelae) 完全に両方とも發育し癒合部が中央なり。即ち胸及腹部に多し。

1、Tracopagus 胸部の癒合。

Xyphopagus 両胎児が完全に發育す。

Trocopagus Parasiticus 發育悪しき胎児が健康のもの胸に附着す。

Epigastrius P. 腹部に其痕跡が附着す。即ち四肢等を附着す。

2、prosothoracopagus 両方のものが胸部及顔面の所に癒着す。

(完)